沖縄医報　Vol.47 No.12　2011

沖縄漢方医学研究会

沖縄漢方医学研究会 前会長　仲原　靖夫
（仲原漢方クリニック）

沖縄漢方医学研究会は沖縄県医学会東洋医学分科会の名称であります。会員は平成23年7月現在85名。県内の日本東洋医学会会員を持って構成されます。昭和62年設立当初は会員も少なく、漢方学習の機会も少なかったため漢方医学研究会は貴重な情報収集の機会でありました。ところが最近ではメーカーによる勉強会も増え、漢方医学研究会の影も薄れてきました。それでも設立以来、8月と12月の二ヶ月を除く毎月の勉強会は毎年続けてきました。原則毎月第四火曜日午後7時30分から県医師会館二階小会議室でテキストの輪読を行なっています。勉強会では基本的には一人ではなかなか勉強しないようなテキストを取り上げ、持ち回りで講義を担当してきました。すると勉強会の常連の先生方は漢方の難しい概念や病態生理についての理解が次第に深まりますが、途中参加の初心者の場合は解説の内容が理解できず1～2回参加してやめてしまうことが多く、限られたメンバーの勉強会になる傾向が強かったようです。

そこで初心者の参加者を増やす目的で入門的な教材も取り入れながらやるものの、勉強会に継続して参加する人はきわめて少ないのが現状です。これは漢方という医学の特殊性にも起因しているように思いますが、何事においても新しい分野を開拓し、継続することは骨の折れることに変わりはないので仕方のないことかもしれません。したがって少数でも継続することに意義があると考えてこつこつと活動を続けています。

漢方を勉強するには強い動機付けが必要であります。現代医療では西洋医学を一通り修得し、更にそれぞれの専門分野に進み、専門医の資格を取ることは必須の要件になってきました。漢方の場合、その上で更に漢方専門医の資格を取らなければなりません。それぞれの分野の専門医の資格を取得、維持することだけでもかなりの努力が必要であるのに、更に一から漢方を習得するにはそれなりの強い動機がなければならないのは当然のことではあります。漢方を勉強するきっかけは多くの場合、それぞれの専門分野で診療しているうちに、現代医学で対応困難な症例を経験して、新たな発想による治療の必要に迫られ、そんな時漢方に目を向け、勉強を始めるのではないでしょうか。入門の動機がしっかりしていると現代医学と全く発想を異にし、専門用語も異なる漢方医学体系の習得の面倒さに耐えられますが、興味があるからちょっと齧ってみようかという程度では途中で投げ出してしまうのが落ちではないかと思われます。基礎的な概念が理解できるまでは歯を食いしばって辛抱する覚悟が必要です。そこに漢方医学研究会の常連のメンバーが簡単には増えない理由があるように思います。

また、漢方の専門医を目指す人にはいくつかの研修関連施設がありますので気軽に事務局にでも相談してください。小生のクリニックにも三名の先生が毎週見学に見えています。また勉強会に参加されたときに、わからない用語や概念について古参の先生方に質問していただくと的確な答がもらえると思います。

現在の教材は大塚敬節著『傷寒論解説』、『金匱要略講話』、『漢方診療三十年』創元社を分担して解説しています。その間に関連する臨床治験例などを各科の専門の先生に経験談として話していただいております。これまでに使用した

教材は浅田宗伯著『勿誤薬室方函口訣』、矢数道明著『漢方処方解説』創元社などです。傷寒論、金匱要略は漢方の基本になる原典でそれらを勉強することにより漢方的病態認識、薬方などの基礎力を身につけようとするもので、日本漢方の基本になっております。

現代医学における治療は常に新しい治験に取って代わられますが、漢方では後漢の時代の『傷寒論』の処方が現在の患者さんについても威力を発揮し、現役で活躍するという、いわば時空を超える医療が展開されています。そこに漢方の病態認識の真面目、普遍性があると考えています。漢方的病態認識を現代医学に翻案すれば現代医療もさらに幅広く患者のニーズに応えられるのではないかと考え、日々漢方に勤しんでおります。従来の現代医学的治療に限界を感じておられる先生方には是非漢方の世界をのぞいていただきたいと思います。

現在の東洋医学分科会の課題は年二回の沖縄医学会でセッションをもてていないことです。同じ時期に日本東洋医学会総会と九州支部総会があり、その準備で手が回らないためです。いつか余裕ができて同じ会場で東洋医学分科会が持てることを願っております。ただし、7年毎の九州医学会総会では東洋医学会九州支部会総会を東洋医学分科会として参加しておりますので他の分科会と同じ時期に開催しております。

(H23.7.15)

※沖縄漢方医学研究会の会長は、平成23年8月23日より梁哲成先生（やんハーブクリニック）へ代わりました。

分科会、研究会等からの報告

沖縄形成外科研究会の紹介

沖縄形成外科研究会会長
新垣形成外科 理事長　新垣　実

＜これまでの歩み＞

沖縄形成外科研究会は、沖縄県の形成外科の研究、教育、診療の進歩・発展を目的として平成４年に発足しました。

その後、２年の活動を経て、山本光宏先生、當山護先生はじめ会員の先生のご尽力により平成６年度から県医師会医学会の分科会として承認され、本格的な分科会活動が始まりました。

これまでの実績が評価され、本年度から日本形成外科学会専門医資格更新の為の研究会として認定されました。地方の勉強会で、大学の後ろ盾無く認定されたのは本研究会が初めてです。

昨年12月には当会理事で中部病院形成外科の石田有宏先生を会頭として、日本形成外科学会九州支部学術集会第84回例会を沖縄国立劇場で開催いたしました。

当研究会の最大の特徴は自由度であり、どの大学/学派の傘下にも属していない事です。研究会では各施設から持ち寄った難しい症例に対して自由闊達な討論がなされ、常に世界基準で知恵を絞り合っています。これまで学閥を超えて、多くの県外/海外講師を招聘して学術講演会を開催できたのも、ひとえに沖縄の自由度がなせる技だと思います。

＜会員数＞

発足当初10名だった会員数は、県内施設の形成外科開設に伴い順調に裾野を広げ、現会員数は33名（形成外科専門医20名、形成外科医８名、他科医師５名）となっております。

＜分科会活動＞

会の活動は、月に一度の英文ジャーナル抄読会、年３回の研究会、年１回の学術講演会を定例の活動として行っています。

月例の抄読会は、英文ジャーナルPlastic & Reconstructive Surgery を選択し、若手の先生の育成もかねて県立中部病院形成外科に担当していただき開催しております。年三回の研究会および学術講演会については、浦添総合病院アルカディア、那覇市医師会館で主に開催しております。

＜学術講演会＞

平成６年度より毎年、日本のみならず世界的にも名の通る超一流の先生を招聘して講演会・学術集会を開催して参りました。

平成 6 年度：長崎大学形成外科教授
藤井徹先生
平成 7 年度：米国UCLA形成外科教授
Dr. HENRY K KAWAMOTO
平成 8 年度：東海大学形成外科教授
長田光博先生
日本医科大学形成外科教授
百束比古先生
平成 9 年度：大阪白壁美容外科院長
出口正巳先生
平成10年度：江崎クリニック院長
江崎哲雄先生
平成11年度：愛媛大学形成外科教授
大塚壽先生
平成12年度：東京警察病院形成外科
大森喜太郎先生
平成13年度：第24回日本美容外科学会招致
當山護先生が会長
平成14年度：宮本形成外科院長
宮本義弘先生

：ロイヤル矯正歯科院長
鶴田仁史先生
平成15年度：東京女子医科大学形成外科
戸佐真弓先生
平成16年度：香川医科大学形成外科教授
井川浩晴先生
平成17年度：クリニカ市ヶ谷院長
倉片優先生
平成18年度：金沢医科大学形成外科教授
川上重彦先生
平成19年度：ヴェリテクリニック銀座院長
福田慶三先生
平成20年度：埼玉医科大学形成外科講師
高松亜子先生
平成21年度：北里大学形成外科名誉教授
塩谷信行先生
：韓国CORE Aesthetic
Seok Joong Hong 先生
平成22年度：湘南鎌倉病院形成外科
山下理恵先生
：九州支部学術集会84回例会
招致　石田有宏先生
平成23年度：神戸大学美容外科特命准教授
一瀬晃洋先生

これらの素晴らしい講演会・学会を開催できたのも、沖縄県の形成外科をリードしてきた當山護先生始め沖縄県医師会の諸先輩方の功績の賜物であると感謝しています。

＜今後の展望＞

本研究会の最大の特徴である自由度は、図らずも会員の医療活動を日本から海外へと広げつつあります。

石田有宏先生（県立中部病院形成外科）は、米国の医師免許を取得され、オレゴン州立大学の非常勤講師として10年以上活躍されております。

伊波博雄先生（クリニカいなみ）はブラジル、ハワイへ短期留学され、世界の形成外科を研鑽されています。

西関修先生（県立南部医療センター・こども医療センター形成外科）は、カナダに留学され小児形成外科を勉強されて帰沖し活躍されております。

新城憲先生（形成外科KC）は、一昨年、日本人医師としては初めてのドバイの医師免許を取得し、ドバイでの医療活動を開始されました。不肖、私も中国の医師免許を取得し、昨年から新垣光之先生（クリアスキンクリニック那覇）とともに、青島市民病院での医療交流活動を開始致しました。目下、五十の手習いで、中国語の勉強に悪戦苦闘中です。

若手の先生も負けてはいません。大石正雄先生（中部徳州会病院形成外科）は米国のチームと提携して、自家脂肪幹細胞移植による再生医療を構築中です。

今泉督先生（県立中部病院形成外科）は、台湾留学から今年帰沖し、口唇裂・口蓋裂をはじめとする先天性疾患を勉強されて活躍中です。

視野は沖縄から世界へ、

≪琉球国は南海の勝地にして、三韓の秀をあつめ、大明をもって輔車となし、日域をもって唇歯となす。この二中間にありて湧出せる蓬莱の島なり。舟楫をもって万国の津梁となし、異産至宝は十方刹に充満せり≫

－万国津梁の鐘碑文より抜粋－

＜事務局＞
宜野湾市宇地泊729番地　新垣形成外科内
沖縄形成外科研究会事務局
TEL：098-870-2990　FAX：098-870-2980
E-mail：info-sca@cosmos.ne.jp